

情報提供日：令和3年2月10日

市民サービスの維持と都市経営上必要な施設整備を前進 一般会計予算 257億8,200万円(前年度比1億7,200万円・0.7%増) 令和3年度龍ヶ崎市予算(案)を発表しました

龍ヶ崎市では、本日(2/10)予算発表記者会見を開催し、令和3年度龍ヶ崎市予算(案)を公表しましたので、お知らせいたします。

【令和3年度予算のポイント】

- 借換債の影響などにより、一般会計予算規模は前年度を上回る
一般会計予算:257億8,200万円(前年度比 1億7,200万円・0.7%増)
※一般会計・特別会計予算総額:398億4,270万円(前年度比△4億4,980万円・1.1%減)
※下水道事業会計 38億3,100万円(前年度比126万円・0.0%)

【令和3年度の主な事業】

- (仮称)図書館北竜台分館運営費(1,866万円)
・サプラスクエア SAPLA 内に、図書館機能をはじめ、キッズスペースやテレワークスペースを兼ね備えた施設をオープン(9月予定)。
※整備費等は令和2年度3月補正予算に計上。
- 新学校給食センター建設事業(5億4,616万円)
・令和5年9月1日のオープンに向け、建築工事費や造成工事費を計上。
- 龍ヶ崎ファンクラブ(仮称)を設立(474万円)
・関係人口創出の一環として、龍ヶ崎ファンクラブ(仮称)を設立。電子マネーカードを会員証に用い、電子マネーの利用額の一部がカード運営会社から寄付される仕組み。
- 新保健福祉施設の整備(2,444万円)
・保健センターの機能を軸に、子育て支援、介護予防の拠点となる施設を整備。
令和3年度当初予算に基本設計費を計上。
- ドライブレコーダー設置費補助金(100万円)
・ドライブレコーダーの設置に対し、上限1万円(設置費の1/2)の補助金制度を創設。

■発表日時	令和3年2月10日(水)午前11時 発表 (上記日時に開催した予算発表記者会見において配布した資料をお送りしています)
■添付資料	・記者発表資料 ・市長記者発表要旨 ・令和3年度龍ヶ崎市予算の概要

担当課

龍ヶ崎市 総務部 財政課 財政グループ
担当者:田中(たなか)・木村(きむら)
連絡先:0297-60-1517(直通)

令和3年度は、コロナ後を見据えた持続可能なまちづくりに取り組みます。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、市税が大幅な減収となるなど、非常に厳しい歳入環境となる見通しです。そのような中、市民サービスの維持に主眼を置き、新学校給食センター建設など、都市経営上必要な施設の前進などに留意した予算編成としました。

令和3年度予算のポイント

一般会計予算は257億8,200万円、前年度比1億7,200万円(0.7%)の増。市民サービスの維持と都市経営上必要な施設の整備を前進

会計別予算の状況		令和3年度	令和2年度	比較	増減率
一般会計		257億8,200万円	256億1,000万円	1億7,200万円	0.7%
特別会計	国民健康保険事業	68億6,500万円	72億4,400万円	△3億7,900万円	△5.2%
	介護保険事業	54億3,800万円	51億9,600万円	2億4,200万円	4.7%
	障がい児支援サービス事業	6,820万円	5,230万円	1,590万円	30.4%
	後期高齢者医療事業	16億7,700万円	15億2,700万円	1億5,000万円	9.8%
	介護サービス事業	1,240万円	1,140万円	100万円	8.8%
	工業団地拡張事業	10万円	6億5,180万円	△6億5,170万円	△100.0%
	特別会計合計	140億6,070万円	146億8,250万円	△6億2,180万円	△4.2%
総計	398億4,270万円	402億9,250万円	△4億4,980万円	△1.1%	
下水道事業会計		38億3,100万円	38億2,974万円	126万円	0.0%

令和3年度の龍ヶ崎市一般会計予算は、新学校給食センター建設事業の本格化、総合運動公園リニューアル事業の実施、(仮称)図書館北竜台分館管理運営にかかる経費等で教育費が7億5,600万円の増となる一方、震災復興特別交付税が措置された龍ヶ崎地方塵芥処理組合のリサイクル施設の長寿命化や龍ヶ崎地方衛生組合の汚泥処理施設の更新などの終了に伴う、両組合への負担金等の減により衛生費が4億6,100万円の減、継続して実施していた防災情報伝達設備整備事業の進捗で消防費が2億7,600万円の減となりました。全体では、前年度から1億7,200万円の増となりましたが、臨時的経費である国・県選挙費や既往債の借換にかかる償還費などを控除すると減少しています。

歳入は、新型コロナウイルス感染症の影響により市税等の大幅な減収を見込み、最も影響を受ける市民税は現年分の個人所得割と法人税割を合わせ5億1,600万円の減収です。その他、消費活動の低迷等による地方消費税交付金の落ち込みを1億200万円見込むなど、歳入環境は非常に厳しい状況です。

財源不足は、昨年度に続き行った一般行政経費のマイナスシーリングのほか、普通交付税と臨時財政対策債を合わせた実質的な普通交付税の大幅増や、財政調整基金の繰り入れにより確保しました。

特別会計は、高齢化社会の進展などで、介護保険事業や後期高齢者医療事業が前年度を上回る予算規模となるほか、障がい児支援サービス事業は、施設整備を行うこともあり増となりました。一方で、国民健康保険事業は縮小し、工業団地拡張事業は、用地の売却が令和2年度に完了する予定であることから大幅減となっています。

★新規 ☆拡充 ☆継続 ◎「みらい育成基金」充当事業

教育環境の向上と「子育て環境日本一」

★ (仮称) 図書館北竜台分館の運営 (9月オープン予定)	1,866万円
☆ 新学校給食センター建設工事 (4カ年継続事業 総額20億4,340万円)	5億4,616万円
☆ ICT教育の推進 (ICT支援員の配置等GIGAスクール構想推進)	3,147万円 ◎
★ スクールソーシャルワーカー派遣事業	181万円
★ つばみ園 (障がい児支援施設) の移転 (10月予定) ・拡充	1,462万円
☆ 産後ケア事業の充実 (訪問型)	18万円
☆ 乳幼児休日健診の実施	12万円
★ いばらき出会いサポートセンター入会金助成など婚活支援	31万円

にぎわいの創出と「市民活動日本一」

★ 龍ヶ崎ファンクラブ(仮称)の設立 (定住人口・関係人口の創出)	474万円
☆ インフルエンサーを活用した市PR動画の制作・配信	300万円
☆ 魅力体験ツアー・イベントの開催	330万円
★ 若柴宿観光案内板の設置	145万円 ◎
☆ 2020年オリンピック東京大会パブリックビューイング	365万円
☆ 2020年オリンピック東京大会事前キャンプ及びスポーツ交流事業	2,349万円
☆ 街なか元気アップ支援事業	600万円
☆ まちづくりクラウドファンディング応援事業	90万円
☆ 新長戸コミュニティセンター建設事業 (旧校舎等解体工事・用地購入費)	1億7,058万円
☆ 市道第3-309号線整備事業 (用地買収・物件移転等)	2,340万円
☆ 市道第1-380号線 (佐貫3号線) 整備事業 (用地買収等) (令和2年度前倒し分2億円含む) 2億3,000万円	
★ 龍ヶ崎市駅東口公衆トイレ改修工事実施設計	176万円

安全安心なまちづくりと「防災・減災日本一」

★ ドライブレコーダー設置費補助	100万円 ◎
★ 空家バンク活用の促進 (空家バンク活用促進事業補助金)	150万円 ◎
★ 危険ブロック塀等撤去補助	50万円
☆ 交通安全施設整備事業 (計画的な区画線補修)	3,000万円

健康づくりの推進と「スポーツ健幸日本一」

☆ 龍ヶ崎たつのこハーフマラソン大会開催費 (令和3年5月9日開催予定)	1,600万円
☆ 流通経済大学龍ヶ崎フィールド (たつのこフィールド) の第3種公認を更新	9,036万円
★ 新保健福祉施設の整備 (基本設計)	2,444万円
☆ まいん「健幸」サポートセンターの運営	1,326万円
☆ 健幸マイレージ事業の推進 (ポイント交換等)	1,048万円
☆ 検診事業の充実 (子宮体がん検診 (医療機関) を拡充)	144万円

公共施設・インフラの新設・拡充等

★ 中学校統合に向けた改修工事 (令和2年度前倒し分806万円含む)	3,357万円
☆ 旧北文間小学校校舎改修工事	5,978万円
★ 橋梁補修工事	7,256万円

アウトソーシング・事務改善等

★ ICT技術を活用した業務改善 (キャッシュレス決済・RPA・AI-OCRの導入)	262万円
★ 口座振替登録の簡素化 (ペイジー導入)	456万円
★ 統合型校務支援システムの導入	359万円

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策に係る予算については、国の令和2年度第3次補正予算による交付金等を活用し、ワクチン接種費用 (約2億4千万円)、その他対策費 (地方創生臨時交付金対象分約2億6千万円) などを補正予算に計上し、国の15カ月予算に呼応した13カ月予算などとして令和3年度当初予算と一体的に執行する予定です。

市長記者発表要旨

令和3年度の予算規模ですが、前年度と比較して、一般会計の予算額は、1億7,200万円、0.7%増の257億8,200万円と前年度をやや上回る予算規模となりましたが、借換債の発行や国・県が全額を負担する臨時的な事業の影響で予算規模が膨らんでいる側面もあります。それらを勘案いたしますと、実質的にはやや下回る予算規模であると言えます。

特別会計の合計額は、6億2,180万円、4.2%減の140億6,070万円と、減少いたしました。

主な減少要因である工業団地拡張事業特別会計では、3月定例会に分譲地の売却に係る議案などを提案させていただき予定しておりますが、令和3年度は、分譲に係る登記事務などの予算のみとなります。なお、土地の引き渡し等が終了次第、特別会計の廃止を予定しています。

また、令和2年度より、地方公営企業法の財務規定を適用しました、下水道事業会計は、126万円の増とほぼ同規模の予算としています。

令和3年度は、コロナ禍の影響で、例年にも増して非常に厳しい歳入環境を見込みつつ、市民生活の維持や「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」に位置付ける重点事業や都市経営に不可欠となる施設の整備を着実に前進させることに重点を置いた予算編成といたしました。

なお、新型コロナウイルス感染症対策関連経費をはじめ、国の15ヶ月予算に連動し、令和2年度補正予算と一体的に予算編成を行っております。

新型コロナウイルス感染症の1日も早い収束に向けて、尽力し、活気とにぎわいのある、ふるさと龍ヶ崎を取り戻す決意を胸に、国・県と連携を図りながら、万全を期してまいりたいと考えております。

令和3年度の予算の特徴です。

一般会計の予算は、前年度を超える規模となりました。これは、人件費や扶助費などの義務的経費の減や、龍ヶ崎地方塵芥処理組合及び衛生組合が行った、基幹的設備改良工事の完了に伴う負担金の減などの減少要因に対して、新学校給食センター建設事業の本格化や、流通経済大学龍ヶ崎フィールドの改修工事などによる普通建設事業の増、さらに借換債の発行を1億7,600万円計上していることなどの増加要因が上回ったことによります。

歳入は、市税や交付金などの一般財源については、新型コロナウイルス感染症の影響を見込むことにより、市税が95億7,000万円と前年度と比べると、5億2,000万円の大幅な減収となるほか、国税などを原資とする地方譲与税や交付金も同様に、1億2,700万円の大幅な減収となりました。

地方交付税については、臨時財政対策債を含む実質的な普通交付税が、5億3,000万円の大幅増となっています。なお、震災復興特別交付税は、対象工事の完了に伴い、皆減となりました。

これらのことから、一般財源総額は、6億6,000万円減、震災復興特別交付税を除いても1億2,000万円の減と非常に厳しい歳入環境となっております。

このような状況から、収支ギャップを補てんするための、財政調整基金と減債基金、いわゆる一般財源基金の繰り入れは、6億6,000万円を計上しており、前年度比2億4,000万円の増となりました。

次に、令和3年度当初予算に計上した主な事業について、戦略プランの全体像と4つの重点目標に関連付けて、

「教育環境の向上と子育て環境日本一」
「にぎわいの創出と市民活動日本一」
「安全安心なまちづくりと防災・減災日本一」
「健康づくりの推進とスポーツ健幸日本一」
の取組に分けてご説明します。

まず、「教育環境の向上と子育て環境日本一」です。

サプラスクエア「SAPLA」に、図書館機能をはじめ、キッズスペースやテレワークスペースを兼ね備えた（仮称）図書館北竜台分館を開館し、読書環境の充実を図りながら、幅広い活動を支援します。また、商業施設の利点を活かしてイベントを開催するなど相乗効果を生み、地域活性化に取り組みます。

新学校給食センターは、令和5年9月の開業に向け、造成工事や建築工事費などを計上し、着実に前進させてまいります。

I C T教育の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業措置の影響などで加速した、ギガスクール構想に基づく学習用端末の配備が完了いたします。教育の情報化推進を支えるI C T支援員を配置し、指導体制を強化します。

また、コロナ禍の中、児童生徒の抱える悩みは複雑さを増しています。教育分野に加え、社会福祉に関する専門的知識を有する、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、学校などと連携を図りながら問題解決に導く体制を構築します。

子育て支援では、近年、ニーズが高まっている児童発達支援について、つぼみ園を移転し、発達に課題をかかえる児童の基本的な生活能力の向上を目指し、個別療育指導を拡充します。

産後の「ママ」を支援する産後ケア事業についても、「宿泊型」「日帰り型」に続き、「訪問型」を追加し、産後の心身のケアや育児サポートの環境を整えます。また、平日に限定し、実施していましたが、休日にも実施することとし、受診機会を拡大します。

結婚支援については、いばらき出会いサポートセンターの入会金の助成制度を新設するとともに、市独自の登録制度を設け、相談会などを実施し、結婚を望む市民の活動を後押しします。

「にぎわいの創出と市民活動日本一」では、

市外からでも本市に関わり、本市を応援、薦めていただける関係人口創出の取組として「龍ヶ崎ファンクラブ」を設立します。ファンサイトを開設し、市の魅力を発信するとともに、電子マネーカードを会員証に用い、電子マネーの利用額の一部がカード運営会社から市に寄付される仕組みを構築します。

また、市の認知度向上、イメージアップにも引き続き取り組んでまいります。定住人口の獲得を目指し、インフルエンサーを活用した市PR動画の制作・配信や、今年度はオンライン形式で実施いたしました魅力体験ツアーの開催、さらには、交流人口の獲得に向け、歴史的な佇まいが残り、観光資源としてのポテンシャルを秘めた若柴宿への観光案内板の設置にも取り組めます。

本年開催が予定されている、2020年オリンピック東京大会では、本市出身である野口啓代さんを、市を挙げて応援するため、パブリックビューイングの開催経費を予算計上しています。

また、ホストタウンとして、キューバ共和国とオセアニア地域の柔道、タイ王国の陸上競技、さらにはアメリカ合衆国の柔道チームを事前キャンプにお迎えする予定です。一流アスリートの技を体感し、さらには、様々な国の方と交流する絶好の機会と捉え、関連予算を計上しています。

コロナ禍で、経済が苦境に立たされるなか、市内事業者・団体等の活動を下支えするため、消費喚起や新しい生活に沿った取り組みを支援する街なか元気アップ支援事業、クラウドファンディングを活用し、資金調達を行おうとする取り組みを支援する、まちづくりクラウドファンディング応援事業を継続いたします。

市民活動の中核施設であり、福祉避難所としての機能も有する新長戸コミュニティセンターの改築を進めます。その一環として、令和3年度は、旧長戸小学校の解体工事に着手し、接続道路となる市道第3-309号線の拡幅に向け用地購入費などを予算計上しています。

また、広域的な交通アクセスの改善に向け、龍ヶ崎市駅周辺から北竜台市街地方面や国道6号牛久土浦バイパス方面へのアクセス道路となる都市計画道路佐貫3号線の整備を進めます。これについては、国の令和2年度第3次補正予算を活用し、財源を確保しながら事業を進めていく予定です。

「安全安心なまちづくりと防災・減災日本一」では、

ドライバーの安全運転意識の向上による事故防止に加え、走行中の記録映像が犯罪抑止にもつながる、ドライブレコーダーの設置に対する補助制度のほか、空家バンク制度を通じて、空家の利活用を推進する空家バンク活用促進事業補助金、地震時に倒壊の恐れがある、通学路などに面する危険ブロック塀などの撤去に対する補助制度を新設します。

また、市道における危険箇所へのガードレールやカーブミラーの設置や、見えにくくなった区画線の補修を計画的に進めます。

「健康づくりの推進とスポーツ健幸日本一」では、

5月9日に記念すべき第1回龍ヶ崎たつのこハーフマラソンの開催を予定しています。感染防止対策を徹底し、ランナーをはじめ、ボランティアや関係者の安全・安心を第一に、大会を運営してまいります。

また、龍ヶ崎たつのこハーフマラソンのフィニッシュ地点となる、流通経済大学龍ヶ崎フィールドは、日本陸上競技連盟第3種公認の期間が満了となります。公認を更新するために必要となる改修費などを予算計上しています。ここ、流通経済大学龍ヶ崎フィールドが各種大会に利用していただき、大記録が生まれ、将来のオリンピック選手が生まれることを期待するところです。

新保健福祉施設は、少子高齢化が進むなかで、保健センターの機能を軸に、子育て支援、介護予防の拠点となる施設を整備するものであり、市民サービスの向上を図るうえで重要な役割を果たします。令和3年度は基本設計を予算計上し、健康・子育て・福祉など様々な観点から複合的な機能を有する施設づくりを進めます。

高齢者の健康寿命の延伸や交流を図る拠点となる、まいん健幸サポートセンターは登録者が360名に達しました。また、現役世代も含め、運動不足になりがちな方の行動変容を促す観点から、日常的なウォーキングに、楽しく健やかに継続して取り組んでいただくことを念頭にスタートした「タッポくん健幸マイレージ」事業は、2,100名が登録し、市民の健康意識の高さがうかがわれます。今後も、魅力ある健幸講座の開催など、市民の健康づくりを多方面からサポートしてまいります。

また、検診事業につきましては、従来の検診に加えまして、子宮体がん検診を医療機関

で行えるよう拡充し、検診環境の充実を図ります。

市民の生活の基盤である、公共施設及びインフラの更新にも取り組みます。

令和4年度の愛宕中学校と城南中学校の統合に備え、統合後の学び舎となる、愛宕中学校について、空調機の増設や床張替工事などの改修を行い、生徒が安心して通えるよう準備を進めてまいります。

そのほか、旧北文間小学校第4期校舎を広く市民が利用できる運動施設に転用する改修工事や、橋梁補修工事、排水路工事などの国土強靱化関連事業も予算計上しています。

アウトソーシング・事務改善については、

新型コロナウイルス感染症対策及び利便性の向上のため、窓口でのキャッシュレス決済を導入するほか、口座振替の受付を簡素化するペイジーを導入し、納税環境の向上に取り組めます。

また、RPA（ロボティック プロセス オートメーション）を活用した定型業務の自動化の試行を継続し、本格運用を検討するほか、学校の働き方改革を進めるうえで、重要とされる統合型校務支援システムの導入により、校務の効率化を図り、児童生徒へのきめ細やかな対応の充実など、教育環境の向上を図ってまいります。

以上、駆け足となりましたが、令和3年度予算の概要をご説明しました。

なお、新型コロナウイルス感染症対策に係る予算は、国の令和2年度第3次補正予算と連動した補正予算に計上し、令和3年度当初予算と一体的に執行する予定です。

ご理解ご協力のほど、よろしく申し上げます。